アメリカ留学

大橋祐輝

留学への参加を希望した理由として、語学力の向上と刺激的な経験を積むことができるのではないかと考えたからである。約４か月間のアメリカ留学は貴重な体験をすることができ、かなり有意義な時間を過ごすことができた。日本に属していては知りえない知識や歴史、更には習慣や文化等々を体感しプラスの影響を受けられた。振り返ると、日本で過ごしてきたありふれた日常とは大きくかけ離れた、非日常な日々を過ごしていたと思える。

日本を発つ前の事前準備からも“留学”と含めるならば、それはもう大変であった。英語で書類を製作したり、東京にあるアメリカ大使館に行ったりと財布の膨らみが徐々にしぼんでいった。旅支度にお金を投資していた私にとって、悩ましい出費だったと記憶している。さておき、初めての飛行機はよろしくなかった。そもそも空港に足を運んだことが１度も無かったからである。乗り換え１回の計１４時間のフライトは、普段から寝つきの悪い私からしてみれば苦痛でしか感じられなかった。だが、機内の窓から見える景色は絶景だった。この留学中で最初に英語をつかったのが機内食を CA と対応する時であった。拙い英語で通じるのかどうか緊張していた頃が、今となっては昔のように思い出される。

長いフライトを終え、目的の大学先のバスに揺られ約１時間、去年と同様の派遣先である Northwest Missouri State University に着いたと同時に、「これがアメリカの大学なのか」と感動を覚えた。第一印象はとにかくでかい、日本の大学のスケールの比ではない、などと想定していたモノではとてもお話にならないほど。どこか小さい町に迷い込んだかのようだった。自然に囲まれていて、あちらこちらにリスが木にめがけて走っているのをみると、なるほどアメリカらしい風景だなと感傷に浸った。留学中お世話になる寮の Franken Hall はアメリカらしいといえばらしいといえる、そんな外見の少し古い造りをしていた。寮での暮らしは悪くもなく、寮に住む人々は本当に優しく、英語が拙い私ですらも気軽に接してくれた。トイレの個室が使えなくなったり、ランドリーが故障したり、クーラーが効きすぎていたり、何を言っているのか理解できなかったり、様々な問題が生じたり。そうした状況化でも友達をつくることができ毎日が幸せだった。共に卓球やゲームをし、時にはファストフード店まで連れて行ってもらい、忘れることのできない思い出となった。

授業に関しては、５つに別れていて Reading/Writing の担当は Mrs.Hardie が担当。見た目はおしとやかで淑女のような印象を受けた。独特な雰囲気で授業を進め、とにかく面白い先生であった。Listening/Speaking　Grammar の担当は Mrs.K 。常に明るく笑顔を

振りまいている天真爛漫な性格をした先生で、個人的に一番好きな先生であった。わからないところがあればいつも優しく教えてくれた、思い出にも残るようなそんな先生。しかし、癇癪持ちで機嫌が悪いと一昨日よろしく、といった本当に大好きだった。 TOEIC は Dr.Foot。基礎の基礎から教えてもらい、５つの授業の中で最もためになったと思われた。また笑顔が可愛い、授業中は笑いの絶えないなどとユニークな先生。Culture は Dr.Trout。パワーポイントを使って授業を進めていく、大学らしい雰囲気での進行であった。可愛らしい笑顔とは裏腹に、聞き取りづらいという難点があり耳が慣れてきた頃でさえも、正直何と言っているのかわからない、留学中の謎の１つであった。授業の他にも Conversation Partner というプログラムがあり、週 2 回現地の学生と 1 時間会話できる機会があった。最初の頃は全く会話が続かず、CP がある日は足取りが重くなったりしていた。やがて慣れてくると会話が弾むようになり、CP が楽しみになった。時には課題を手伝ってくれたり、フリスビーをしたり、車を出してもらったりとあらゆる場面で助けてくれた。Sean に感謝。

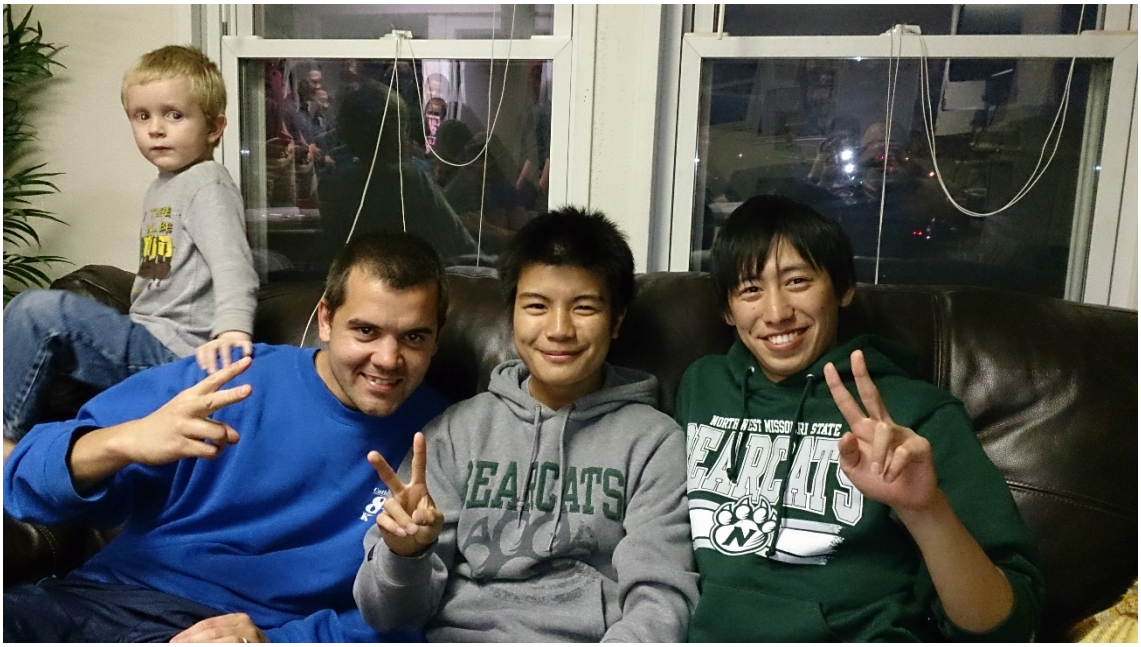
ESL には韓国や中国、サウジアラビア、ブラジル出身などと様々な人々と共に学んだ。各国の独特な発音にとても驚き、聞きやすかったのが韓国人でその反対がサウジアラビア人。それぞれ個性が強く、人によっては会話が続かなかった苦労もしたが、それでもうまく付き合えたと思う。ところで、寮はルームシェアとなっていて、ルームメイトはメキシコ出身の学生だった。名前は Diego。初めて挨拶を交わしたときの印象としては「なるほど、メキシコ人っぽいな」と。これまで異国の人とのルームシェアの経験は勿論なく、当時はこの先どうなるか不安と緊張で一杯。親睦を深めるためにお土産をあげたり、ご飯を共にしたり、新入生歓迎会のようなイベントを共に行動したりしているうちに、次第に打ち明けることができた。互いの国文化を教えあったり、つまらない日常会話をしたりと貴重な経験をすることができ本当に良く感じられた。

アメリカで過ごした約４か月で多くのイベントがあり、できる限り参加した。中でも強く印象深く残っているのが、Halloween と Newman Catholic Center である。Halloween は日本ではあまり盛んではない習慣であることから、初めてのイベントであった。子供だけが仮装し楽しむと思っていたのだが、いざ参加してみると大人もまるで童心に振り返ったかのように楽しそうに盛り上げているのを見て、すこし羨ましく思われた。今回は参加できなかったので、また機会があれば今度は参加したい。Newman Catholic Center はこの留学中でとてもお世話になった。毎週水曜日の夕方から Free Dinner が開催されていて、在学生とカトリックの方と交流する機会が設けられた場である。可能な限り足を運び、カ

トリックについて多くのことを学ぶことができた。毎週異なった料理を食べられるので行くたびに楽しみであった。多くのカトリックの方と知り合うことができ、ためになる話も聞くことができ、自身にとって大きく成長できたのではないかと感じられた。時には課題を手伝ってもらい、ディナーの時は共に卓を囲い、本当に優しく接してもらい嬉しかった。

以上が約４か月に及ぶ留学の記録である。振り返ってみると、あっという間だったなと感傷に浸たり、もっと滞在したかったと後悔の念が体内で残留している。日本の文化の素晴らしさを再認識することや、反対に改善すべきと思うところを気付くことができたのではないだろうか。もちろん、異文化に対する受け入れがたい習慣・言動が多々あった。日本にいた頃はカトリックに対する評価が良くなかった。宗教普及目的による執拗な勧誘ばかりで、中身について深く知ろうとしなかったためである。しかしこの留学を通じ、今まで自分自身の持っていた思念を改めさせることとなった。自ら現地に赴き自ら体験することにより理解できることもあった。書物や人伝の事柄を鵜呑みするのではなく、自ら赴き見て学び、感じ考えることが大切であると理解できた。このことを忘れることなく、今後の未来のために少しでもプラスに働けば幸いである。

PANTHERS


BEARCATS
NORTH WEST MISSOURI STATE
BEARCATS